



一年を振り返って

(社)鶴岡青年会議所
2007年度理事長 佐々木 一 広

(社)鶴岡青年会議所の皆さんには、一昨年からは、LOM専務理事・山形ブロック協議会運営専務、そして本年は理事長という役職を与えていただき本当に感謝しております。JCに入会していなければ、経験出来ない事ばかりで、自分にとって大変貴重な経験をさせていただきました。

2007年度理事長として一年を振り返りますと、なぜ? どうして?と思うところもありながらも、一生懸命行動してきたと思っていますが、今になって何となく寂しく、虚しく、思い残すこともあり、満足感や達成感を感じる自分がいる反面もっと準備期間を大事にすれば良かったと思っています。

また、様々な場面でメンバーからは多くの支援をいただきましたが、理事長としてお返し出来ない事も多々あり力不足を痛感する一年でもありました。

さて、今年度のスローガンである、まちに夢を描く「未来のまち、そして子どもたちのために みんなの夢を描こう!」のもと会員の皆様におかれましては、どんな一年だったのでしょうか?自分なりに夢と希望をもってスタートし満足した人、またイマイチだと反省している人、それぞれいろいろな意味で感想をお持ちだと思いますが、つねに第一歩を踏み出す勇気だけは忘れないで、心の中に刻み込んで行動して欲しいと思います。



夢を実現し成功するためのキーワードとして「自信」「失敗を恐れない」「あきらめない」の3つを基本理念に挙げさせていただき、活動してまいりました。

成功に至るには反省と努力があります。失敗を恐れて何もしないのでは成功に至らない。しかし、何かをすれば失敗というリスクを負わなければなりません、得るものが大きければ大きいほど、失うものも大きかったりするので、成功への道は決して平坦なものではありませんし、絶対に大丈夫とはいえません。しかし、失敗を恐れてばかりいてチャレンジすることあきらめてしまっただけでは前に進むことも出来ません。そういうときには、自分で信じる道を行くしかありません。自分でいいと思ったこと、これなら行けると思ったことに賭けるしかありません。ビジネスも人生もJC活動もそのくりかえしなのだと思います。

最後に、今年一年間ご支援・ご協力を頂いた多くの皆さまをはじめ、メンバーの皆さまに心から感謝を申し上げ、「ありがとうございました!」の言葉で締めさせていただきます。

2007年度

卒業生特集

菅原 衛 平成1年度入会



- ①平成元年から19年間、本当にお世話になりました…と書き出すと途方も無く長い時間のように思えますが、いざ何をお伝えしようかと改めて考え始めると以外にも短く感じられます。それは昨年の理事長拝命を始め、様々な経験をさせていただいき、失敗は多くありましたが後悔はまったくなく、自分なりに充実したJCライフだったからではないかと振り返っております。
- ②元ちゃん会始めOB、現役メンバーでその時々で関わった皆様にはご迷惑をお掛けいたしました。この場をお借りして深くお詫び申し上げます、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

齋藤 正至 平成5年度入会



- ①担当した事業にはそれぞれに思い出がありひとつを採り上げて語るのは難しい。何せ在籍14年。我ながら驚くのはそのうち10回も出向をしていたこと。東北各地で開催される委員会へ車を走らせての移動。東北の広さを実感！
- ②アドバイスができるほどの器ではありませんが、ひとつ言えることは「JC活動を通して見識を深めたり、友情を築いたりすることが、自分を成長させ、ひいては地域を活性化させる原動力になる。」

岡崎 克己 平成6年度入会



- ①自分が委員長として受け持った事業や、カンボジア、韓国に行ったことは印象深く心に残っています。嬉し楽しいは勿論のこと、苦勞したことは自分のための成長や貴重な経験となり、すべては良い思い出となるものですね。
- ②メンバーへ 参加することで友人が増え、積極的になることで自己が成長し、真剣になればきっと何かを掴めるのがJCです。鶴岡青年会議所へ “自己よりも他(市民)からの” 価値ある満足を得られる活動を展開してください。

尾形 幸一 平成6年度入会



- ①全てが思い出ですが、天神祭りの際の大きな獅子頭作成は特に印象に残っております。皆で一丸となり夜遅くまで作成しました。何よりもお互いに励ましあい支えあった日々は忘れられません。
- ②失敗を恐れず若い力でとにかく前進あるのみです。皆の力を結集すれば成し得ないことも出来るはず。さすれば、一生でも得がたいことを得ることと思います。頑張ってください。

野口 義明 平成10年度入会



- ①赤川花火はとにかく最高でした。地域の方々と共に感動でき、達成感も違います。そして、天神祭りでのパレード。駅前から鶴岡公園までは遠すぎる。何回参加しても長南肉屋さんまでしか覚えていません。前夜祭にJC樽太鼓を疎林広場でたたいた事も思い出です。リズム感もないのに・・・トホホホ
- ②とにかく積極的に参加してみる事。そしていろいろチャレンジしてみる事だと思います。どうしても好きな分野、得意分野だけ積極的になりがちですが、いろいろ経験してみることも勉強だと思います。そして皆で感動、達成感を味わえたらいいでしょう。

大川 和彦 平成11年度入会



- ①思い出は多々ありますが、その中でも印象に残っているのが、今では懐かしい祭り委員会です。尾形幸一委員長のもと毎晩のように獅子の製作、樽太鼓の練習に明け暮れた記憶があります。きついローテーションではありましたが、やり遂げたときの感動はいまだに心に残るJCライフの1ページです。それからなんといっても花火に携われたことです。何もたいしたことはできなかったですが、あの花火が上がったときの感動は忘れることはないと思います。数々の思い出ありがとうございます。
- ②アドバイスなどと偉そうなことはいえませんが、まずはできる範囲で活動することだと思います。その中で苦しいこと楽しいこと色々あると思いますが、必ず人生の中でプラスになることだと思います。またいろんな出会いがある中で勉強になることがきっとあるはず。それを仕事、遊びに役立てて欲しいと思います。

佐藤 康平 平成12年度入会



- ①やはり始めてメンバーとして参加した赤川花火大会と姫路城をバックに西条秀樹と一緒に歌って踊ったヤングマンですね。
- ②制約の中での青年会議所活動はつらく厳しいことが多かった。でもその中から自分なりの発想を見つけだし、今までの自分とは別の自分を見つけることが出来るのがJCだと思います。制約の中からは新しい発想を見つけてください。

渡部 明芳 平成13年度入会



- ①平成13年に入会し早くも7年、ついに卒業の年になってしまいました。今、思い起こすと「東北青年フォーラム」のため準備作業を徹夜で行ったり、仙台市で開催されたアスパックで韓国料理店でみせた不思議な盛り上がりなど、たくさんの思い出があります。赤川花火大会での事前準備(協賛活動担当)を連日行い、花火がうちあがったときには大きな事業の成功にとても嬉しく感動しました。
- ②これからも現役の皆さんはたくさんの方々の事業を成功させていけるとおもいます。JC内部での事業や外部との交流を持ちながらの事業など、たくさんの活躍をされることを期待しております。

1967年生まれ鶴岡 J C と同じ時代を刻んだ16名

本当にお疲れ様でした！

① J C の思い出

② 後輩へのメッセージ

五十嵐 靖 平成14年度入会



①入会した当時は全員が同じ顔に見えメンバーの顔と名前を覚えるのに苦労した思い出があります。活動して行くうちに段々と名前や性格がわかってきました。そうすると段々と J C 活動が楽しくなってきました。

② J C 活動はとても楽しかったです。 J C 活動をもっと一生懸命やっていれば、もっと楽しかったのかも……仕事と J C の両立は難しいね。両立させているメンバーは偉い！両方一生懸命やりましょう！

山崎 亮 平成15年度入会



①平成15年に入会し、第13回赤川花火大会から運営に携わって参りましたが、市民の方や協賛企業の方よりご苦労様、今年も楽しみにしているよと励ましを頂いた時と、その年のオープニングが上がった瞬間がたまりませんの～。

②例会や委員会活動、そして花火大会実行委員会に積極的に参加することで、メンバーだけでなく大勢の人と出会いがあります。そこで、苦労を共にし、酒を酌み交わし、交流を深めることで、自分も成長できると思います。新たな出会いを大切にがんばって下さい。5年間ありがとうございました。

遠藤 徳彦 平成15年度入会



① J C の思い出と言われても、あまり参加していないのでこれと言うものはないのですが、入会初年度の天神祭りのパレードが印象深いですね。右も左もわからない時に、会館に呼び出されて、枝豆と孟宗竹の着ぐるみを連日連夜作らされ、この先輩達は何を考えているのか、自分たちはどうなるのか、この J C は一体何の団体なのか不安になったのが良い(悪い)思い出です。でもパレードは最高でした。いつか再開して下さい。花火も良い思い出ですが、字数の都合上これ以上書けません。来年は升席で観覧させていただきます。

②後輩へのアドバイスなど、自分の立場から何も言うことはできませんが、出来るだけ会館に顔を出し、委員会や例会に出席してください。色々な経験やスキルアップが出来ると思います。自分たちの卒業まで頑張ってください。

梅屋 宏 平成16年度入会



①16年に入会以来4年の間、天神祭りや花火など J C に入会しなければ出来なかった事業を経験させていただきました。特に花火事業は自分の携わった過去4回全てが、対外的な方々と触れ合うことができ、楽しさも辛さも含めて良い思い出です。

②「人生は玉ねぎの如し、人は泣きながらその皮を剥く」中村主水が必殺仕事人の最終回で言った言葉です。一期一会を大切に、これからの J C 活動で数多くの皮を剥いて成長して行ってください。

金野 昭博 平成15年度入会



①すべてが、良い思い出です。入会したときの想いのまま過ごせたとはいえない自分ですが、各年度に配属していただいた委員会の事業をメンバーの皆さんと作りあげていく楽しさを知る事ができて本当に良かったと思います。

②アドバイスが言えるような立場ではないのですが、変化の激しい時代ですので、仕事や生活が現状と違って行く事もあると思います。そんな時でも出来る範囲のことだけでも手放さず活動をつづけていただきたいと思います。鶴岡 J C はすごい懐の深いメンバーが揃ったところです。

丸山 豊 平成16年度入会



①私の活動期間は4年でしたが、思い出といえるほどの活動はしていない、というのが正直なところです。敢えて書くなら昨年、花火の実行委員会メンバーになることを告げられた時、ですね。ショックで。

②思い出と同様、アドバイスといわれても、困ります。やる気次第で楽しくも辛くもなる団体だと思うので、そこどころうまくやりくりして下さい。とかでどうですか。すいません。

佐藤 正晴 平成15年度入会



① J C の思い出といえば…。総務委員会で議事録作って長南先輩の監事講評が長くて泣いたこと。天神祭りのトラックの上で太鼓たたいて気持ちよかったこと。平泉に行ってわんこそばを正栄堂さんの半分食べたこと。そして花火…。100字では言い表せません！！

②後輩というか J C の皆さんへ。いろいろとお世話になりました。いままで一緒に活動してくれてありがとう。心から感謝します。そしてこれからも仲間と一緒に、自分のやりたいこと、楽しいこと、今しかできないことをがんばってください。

藍 博之 平成17年度入会



①3年間の J C 活動で一番思い出にあるのが、40周年記念事業の司会を務めさせていただいたことです。あれほどの方々に参加する事業とは何にも知らないで引き受けましたが、非常に貴重な経験をさせていただきました。

②鶴岡 J C の活動は非常に意義のある活動を数多く行っていると思います。特に対外的な事業については、各事業ともに地域の住民のために有意義な事業と感じますが、事業数自体の数があまりにも多いのではと思います。



12月例会

卒業式のご報告

交流委員会 副委員長

大 滝 研 一 郎



去る12月15日(土)グランド エル・サン、クリスタルホールにて、12月例会「卒業式」が盛大に行われました。師走の忙しい中、卒業生をふくめ約80名のメンバーにご参加いただきました。今年の卒業生は近年では最多の16名、しかも鶴岡JCの中枢を担った熱い方々です。まずもって、卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

オープニングの卒業生入場では、音と映像による演出をしましたが鶴岡JCを卒業する自信と誇りに満ちた堂々の入場でした。工藤次年度専務による送辞は、卒業生一人ひとりに笑いあり涙ありのコメントを入れて頂き本当に卒業生を良く見ていて愛していたんだと感じさせました。卒業生による答辞は、ひとりわずか3分という制限時間を申し訳なく思いましたがJCに対する熱い

想いがメンバーの心に届いたのではないかと思います。そして、恒例の「追出し状」。ここでは何も書けませんがJC活動における功罪が発表され会場が笑いに包まれました。

こうして、卒業生がJCを旅立ち今年度最後の例会が終わると師走も佳境に入り、来年また終わりのないJC活動が始まります。(いや、すでに数ヶ月前から始まっている)そして、また高い志をもった新入会員が入会し、JCは常に新陳代謝して行くのです。最後に、今間委員長、委員会メンバー、出席いただいた現役メンバーの皆さん長時間の例会大変お疲れ様でした。卒業生の皆様、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。



12月特別事業 クリスマス家族会のご報告

阿 部 勝



12月7日(金)マリカ市民ホールにて行われた12月特別事業「クリスマス家族会」には何かと忙しい師走の中、多数のご参加を頂きありがとうございました。新入会員が右も左もわからない中、試行錯誤して企画運営したわけですが楽しんで頂けたでしょうか。

日頃のJC活動を支えてくれている家族の方々への感謝の気持ちを参加者の皆さんが少しでも感じていただけたら幸いです。何かと至らない私たちを参加していただいた方々や拡大委員会の方々に温かい目で見守っていただき本当にありがとうございました。

想定内?のアクシデント(失敗?)も多々ありましたが、新入会員が協力し合って盛り上げることができ、達成感を感じることが出来ました。

これからのJC活動に役立てていくことを誓って報告とさせていただきます。



2008年度からの広報が変わります

JC・地域魅力発信委員会 委員長 諏訪 友幸

いままで郵送していましたが鶴岡JCニュースですが、08年度は年2回発行となりまして5月末・11月末発行予定のカラー広報誌を郵送致します。この誌面には地域の情報や魅力の発信、鶴岡JCの情報などを予定しています。また多くの市民から見ってもらうために発行部数は1万部として今年の16倍になり新鶴岡市と三川町エリアの荘内日報に折込をします。

それとまた毎月のお知らせは、荘内日報の1面下段に確保した広告枠を利用する広報活動にて行います。こちらにはお知らせや公開例会案内、会員募集情報、ワンポイント例会報告などを掲載します。1月の掲載は1月6日付の荘内日報誌面です。こちらどうぞご覧ください。

より多くの方を知って頂き、地域に根ざす鶴岡青年会議所を目指す為のチャレンジです。来年1年間どうぞよろしくお願致します。

〈鶴岡の「粋」な黒鯛釣り師〉

この庄内、とりわけ自分達が住んでいる鶴岡では、前号までを読めば判るとおり釣りに関しては非常に関心が高く、中でも黒鯛釣りとも成れば「馬鹿」が付く程の好き者が多い。また、その釣り方にも暗黙の「掟」みたいなものも出来上がってきた。

この鶴岡では、黒鯛シーズンと成るのは秋から寒にかけてと決まっているものの、その釣り馬鹿達はどうしてもシーズン外の季節にもその「黒鯛」が頭から離れない。そして、同時に「黒鯛」がとても良い「ダシ」で有ったりもする。

今から六、七年前にさかのぼる...夏真っ盛りの或る暑い夏の日であった。その三人は大阪空港に着いて足早に新大阪駅行きのリムジンバスに乗る。これから三日間の紀伊半島一周黒鯛釣りに胸を高鳴らせて、電車を乗り継ぎながらひたすら和歌山の御坊を目指した。

三人はJCOBでA氏は一番の年長で理事長経験者、次いでYっさん、そして一番若いTという前々からの釣り馬鹿釣行トリオである。実にこの三人は方々に遠征をしている。その内容を記するには、余りにも大きく紙面を割かなければならぬので割愛するが、この三人ほど「黒鯛釣り」と称して馬鹿な事ばかりをやった。その紀伊半島一周釣行も、内容は詳しくは言えないが、とても「黒鯛釣り」とは言えないような釣行だった気がする。

その後メンバーが増えて後輩のH君や友達Y氏等々が同行する事に成る。富山、佐渡、新潟、秋田、青森等々、この何れもが様々なエピソードが隠されている。しかし、この紙面ではとても言えるような内容ではなく、今思えば、思わずぞっとしたり、赤面してしまったりという事が余りにも色々なドラマが多過ぎるほど有った。だから、「黒鯛釣り」は止められないのである。

前号までの内容は、庄内鶴岡の「黒鯛釣り」に関する歴史、文化、釣法、礼儀、精神、経験談等々を綿々と書き綴られてきたが、結局は、鶴岡の釣り師達が「黒鯛釣り」というテーマによって様々な数多くのドラマが作られてきたと言うことである。それだけに鶴岡の先人釣り師に「黒鯛釣り」という、とても「粋」な釣りのテーマを残してくれた事に唯々感謝するばかりである。そして、これからの人生最後の最後まで「黒鯛釣り」のとっても「馬鹿」な仲間たちと数多くの面白いドラマを作ることに成るでしょう。

今回で最終号と成りますが、皆様からご愛読頂いた事に感謝すると同時に機会があれば、またの連載にご期待願います。

最後に、「黒鯛釣りと掛けて、東の風と説く。その心は、時折ダシにも成る。」ヨッ！真打！

お後が宜しい様で...

平成19年丁亥12月15日

黒鯛釣り師「硬派」な、つっち～

発行：2007年度 社団法人鶴岡青年会議所
〒997-0802 山形県鶴岡市伊勢原町8-5
TEL 0235-24-0377 FAX 0235-22-5090
発行責任者：佐々木 一 広
制作責任者：広報委員会委員長 小池 信 治
発行日：平成19年12月25日
ホームページ <http://www.tsuruoka-jc.info>

JCF 磯釣り大会報告

毎年、秋の恒例行事のJCF 磯釣り大会が、去る11月11日(日)に日本海一円にて盛大に開催されました。あいにくの天気で大勢の太公望が苦戦する中、見事優勝されたのは当委員会の委員長、『ニセエの小池』で知られる小池信治君でした。釣り上げた魚は2尺



5寸を上回る鱸!!。なんと彼は現役のくせに2度の優勝に輝きました。委員長おめでとうございました。

夕方、月山荘での懇親会では終始和やかにおいしいご馳走とお酒

を堪能いたしました。只、渡辺孝之君によるガズナギ攻撃にはいささか目に余るものがありました...

今年も沢山のご協賛と、多数の参加者に感謝いたし来年もまた盛大に開催されることを祈念いたし、末筆ですがお礼に代えさせていただきます。 JCF 幹事一同

編集後記

毎月の締め日に追われ、不安の日々がつづきましたが、12ヶ月間遂行できましたのも、ご協力いただきました皆様のおかげと本当にありがたく感謝しております。また、富樫副理事、菅原常任理事、メンバーのみんな本当にありがとうございました。 小池 信治

1月号～12月号まで編集長を勤めさせて頂きました、1年間、皆さんのおかげで広報誌を作ることが出来ました、ありがとうございました、感謝申し上げます。

最後に梅屋さん、ほんとでありがとうございます～！ 佐藤 裕宣

今年度、釣道を担当いたしました『おが いし』です。

ご多用にもかかわらず、執筆にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



紙上にて誠に失礼ながら厚く御礼申し上げます。

※終わった！終わった！終わった！

さあ尚武！さあ尚武！さあ尚武！

おが いし

07年度はJC入会以来2回目の広報でしたが、08年度はまさか2年連続3回目の広報系委員会になるとは想像していませんでした。今までの経験を新たな創造に活かしてまた来年も皆様よろしく願います。いつも酔いどれ、花見小僧でした。 諏訪 友幸

この一年間、鶴岡JCニュースに玉稿をいただいた多くの皆様に心から感謝申し上げます。メンバー、OB、各組織・機関をつなぎ、鶴岡JCの活動に理解を深めていただけた一助となったとすれば幸いです。 佐藤 聡

広報に配属され1年。今年のJCの事業は広報として参加していた1年でありました。どの事業にもカメラ持参。わんぱくと花火では広報自転車持参。パパラッチとなりきったこの1年もやっと終わりです。来年はカメラを持参しなくともすむかと思うと・・・。体が寂しいような……。 小林 範正

2007年度 事業回顧録

センタリーグループ会務理事 中村 忠之



前年度40周年を迎え今年度の41年目は原点に立ち返り新たな気持ちで一步を踏み出そうという決意を込めたテーマ「地域とLOMの夢を実現し新たな気持ちで前進しよう!」という委員会テーマを掲げ会務理事として一年間活動してまいりました。今年度を振り返ると2007年度の事務局は従来の事務局の業務に止まらず、総務渉外業務も担い非常に多種多様なセクションであり、限られた人員の中で副会務理事並びに会務セクの6人にはかなりの負担がかかったのではないかなと思うと同時にセンタリーグループ全員から支えられて一年間無事に終わることができました。また、一年間の活動を通じセンタリーグループ全員が個々の役割に責任を持ち、少しでも成長できたのではないのでしょうか。本当にありがとうございました。

交流委員会委員長 今間 智寛

今年度、交流委員長を仰せつかり誠にありがとうございました。昨年の10月に委員会を立ち上げてから、この1年間はアツという間に過ぎてしまったような気がします。委員会を立ち上げてからすぐ1月例会の準備に取り掛かり、それが終わるとブロック会員大会・OB交流会、そして卒業式(まだ終わってませんが)など1年間がまるで1ヶ月くらいのスピードで過ぎたような感じがします。何も分からない私をサポートしてくださいました、富樫副理事長・菅原担当常任・大滝副委員長そして委員会メンバーの皆さん本当にありがとうございました。まだ、卒業式が残っておりますが、精一杯頑張りますのでLOMの皆さん最後まで、どうぞ宜しくお願い致します。



広報委員会委員長 小池 信治

今年度、広報委員会では広報誌、ホームページの作成、10月例会の企画・運営を担当いたしました。広報では初めての担当となりました例会「マイクロパブル講演会」を鶴岡法人会様と開催させていただきました。この事業を通じて単独開催では知り得ない、そして成し得ない多くの事を学ぶことが出来た点、ご協力・ご参加いただきました皆様に、そして例会担当を与えて下さった佐々木理事長に心より感謝申し上げます。



拡大委員会委員長 佐藤 正廣

今年の拡大委員会は昨年の会員拡大大成功の直後ということもあり、大きなプレッシャーの中で新入会員20名の今年度必達目標を掲げて委員会一丸となって予定者段階から頑張っておりました。委員の皆さんの努力と鶴岡JCメンバーのご協力でなんとか目標を無事達成できたと考えております。今年一年ありがとうございました。



研修委員会委員長 草島 孝志

3月と11月に例会を開催させていただきました。3月例会では比企青年会議所の新田氏を招き、同世代でもある氏の体験を通して私たちが一番関心を持っている地域振興や企業経営について認



識を深めることができました。

また11月の例会では、北澤氏の講演やサッカー教室を通じてLOMメンバーだけでなく、地域の方たち、とくに将来を担う子どもたちとも交流を深めることができ、本年のスローガンでもある「まちに夢を描く」を実践することができたと自負しております。

今後も、今年研修したことを糧に、地域に貢献できる活動を展開していきたいと思っております。

地域創造委員会委員長 辻村 利則

今年度の地域創造委員会は室事業を含めると4回例会を行いました。皆様覚えておられるでしょうか?しかしながら最大の思い出は、3月に実施予定だった県議会議員選挙公開討論会の中止です。例会ではなかったですが、最大のメイン事業でした。前年から準備を進めており、これから気持ちも高まっていく矢先のことでしたので、諸事情はあるにせよ、非常に残念でした。これからは全ての選挙に関して公開討論会が行われるのが当たり前になって欲しいですね。



青少年委員会委員長 青柳康一郎



今年度の青少年委員会は5月のわんぱく相撲と9月の災害対応キャンプを担当しましたが、どちらも子供達と行動を共にすることで、普段はなかなか出来ない体験をさせて頂けたと思います。どちらも今までにはなかった例会だったので、至らぬ点は多々あったと思います。委員会メンバー始めLOMメンバーの御協力を感じています。本当にありがとうございました。

赤川花火運営会議総括幹事 佐藤 正晴

今年一年を振り返ると、とにかく花火花火火でした。何をしても花火で、TVで「どーん」となれば、「今のはどこの花火屋かなー」と言い、地元の企業の名前を聞けば、「あー、協賛金〇〇円のところだ」などと、とにかく花火大会に関することばかり考えていた一年でした。あ、あとお酒にまみれた一年でもあったような気がします。無事に大会も終わって卒業モードでちょっとネオンが寂しい今日この頃です。



公益法人化準備会議 総括幹事 渡辺 孝之



今年一年、ご協力いただいた皆様ありがとうございました。公益法人格取得に向けての活動が、本格化してくる重要な時期にこのような役職を務めさせて頂けたことにより、貴重な経験をすることができたと思

います。

定款の件は……?
忘れてはけません!!より魅力ある鶴岡青年会議所にするため、定款・諸規定を探究していきます。